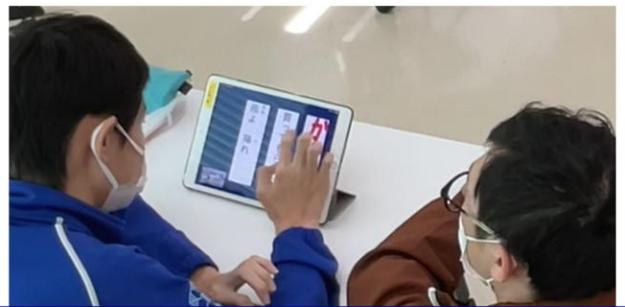




# 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

## 令和3年度 研究報告リーフレット



### 子供の主体的な学びを実現する授業づくり - 子供は何をどのように学ぼうとしているのか -



### 授業研究「学びあいの場」

本校の授業研究「学びあいの場」では、子供の**学びの過程**に注目し、「子供が何を考え、どう学んでいたか」を、**実際の子供の姿**から見取り、捉えようとしています。

子供それぞれの**学び方や考え方を捉え**、個別に対応していくことで、「**何かに気付く**」「**自ら行動を変える**」といった子供が主体的に考えている姿を実現し、子供のより**主体的な学びの実現**を目指します。

子供の主体的な学びの  
実現を目指す

子供の視点で  
見る

聴き合う

的にたくさんあてよう



上手だね！  
また当たったね！

- ・楽しそうに何度も投げる
- ・ボールがたくさん的に当たる

子供の  
主体的な「姿」

5つだけで  
高得点を目指そう



すごいね、考えて  
場所を変えてるんだね！  
〇〇さんの方法を  
やってみただね

- ・たくさんは投げないけど、毎回投げる位置を変えている
- ・友達の様子をじっと見ている

子供の  
主体的な「学び」

## 授業づくりの聴き合い

「学びあいの場」の視点を生かした、子供の姿の  
事実に基づき、子供の考え方を尊重した授業づくり

教科や単元の目標に向かう子供の主体的な学びの実現を目指して、「学びあいの場」の視点を生かした「授業づくりの聴き合い」を行いました。授業をして聴き合いをして、それを受けて授業をして、また聞き合う、ということを、授業者同士やプロンプタ(※)と行ったり、学部の教員全員で行ったりと、多層な聴き合いを重ねて行くことで、多様な解釈が授業づくりに生かされるようにしています。特に、学部での聴き合いにおいては、次の3つの段階で進むようにしています。1つ目は、その授業の中で見られた子供の姿とその姿についての解釈についての聴き合いです。次に、姿と解釈の聴き合いで見えてきた子供の今の実態や考え方について聴き合い、それを受けてその子供にどう学んで欲しいか、何を狙うかの願いについて聴き合います。最後に、実態と願いを基にした、授業改善への授業者や参観者の気づき、具体的な手立てについて聴き合います。このような段階を踏むことで、授業改善において手立てが先行せず、子供の姿の事実に基づき、子供の思いや考え方を尊重した授業づくりになるようにしています。

子供の姿の事実と  
解釈の聴き合い

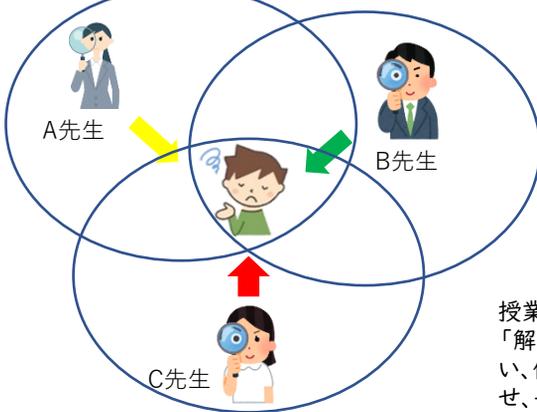
子供の实態や願いに  
ついての聴き合い

授業改善への気づきと  
具体的な手立て  
の聴き合い

※プロンプタ:聴き合いを進行し、話題を整理したり、つないだり、深めるための問い掛けをしたりする。授業者とも何度も話をして、授業者の思いや狙い、課題に思っていることなどを共有する。

### 子供の姿の事実と解釈の聴き合い

#### 授業の中の子供の姿



気になる場面について2枚のラベルに書く

子どもの言動を  
そのまま描写する

言動ラベル

(つぶやき、動き、視線、関わりなど)

「なぜそうしたのか」  
を子どもの視点で  
推察する

解釈ラベル

(その時の子供の思いや考えを推察)

授業の参観者は、各自が捉えた授業の中の子供の姿について、「言動ラベル」と「解釈ラベル」の2枚に分けて記入し、持ち寄ります。各自のラベルについて聴き合い、他の人が捉えた別の解釈や、関連する別の場面の姿などを出し合って重ね合わせ、子供の捉えについて深めていきます。

### 子供の实態や願いについての聴き合い

子供の姿と解釈について聴き合うことで、今の

子供の实態  
(今考えていること、学ぼうとしていること)

が見えてくる

願い

「さらに〇〇に気付いてほしい」  
「もっと××について考えてほしい」

子供の姿と解釈について十分に聴き合うことで、その子供の今の実態や考えていると思われることが見えてきて、そこから次の願いが見えてきます。生徒の今の実態や願いが確認・整理された上で、最後に授業改善の手立てについて聴き合い、授業者は次の授業に向けて考えていきます。

### 授業改善への気づきと 具体的な手立ての聴き合い

子供の「姿の事実と解釈」に基づいた、  
子供の「実態と願い」が整理された上で、

授業改善のための  
具体的な手立てやアイデア

を聴き合う

授業者の気づきは？  
次の授業をどうしようと思ったか？

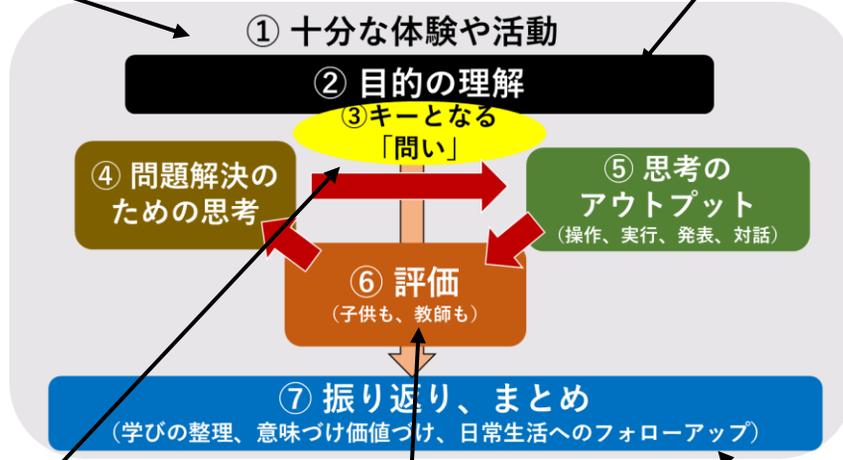
# 子供が考えるための 単元構成イメージ

プログラミング教育実践の成果を生かして、授業の中に子供が考える場面を意図的に仕組んでいく

主体的な学びの実現のためには、聴き合うことで子供の主体的な学びを捉えることに加えて、授業または単元の中に子供が考える場面を意図的に仕組んでいく必要があると考え、「単元構成イメージ図」を作成しました。まず、単元で扱う題材やテーマについて十分に体験し、経験できる機会を設けます。それによって単元の目的の理解を促し、目的への理解や動機付けが高まった上で、考え始めるためのキーとなる問いを投げ掛けます。キーとなる問いを受けて考え始めた子供たちに対し、その思考をアウトプットできる機会を設けます。思考をアウトプットすることで思考が可視化され、可視化されることで評価が促されます。自分の思考を評価できることでまた新たな気づきや思考が促され、それらが循環することで考えが深まっていきます。このようなイメージをもって、授業づくりを進めました。

①扱う題材について、十分に体験し、理解を深める  
→考えるための土台に

②単元の目的を理解する、意欲を高める  
(何のためにこの活動をするのか?)  
繰り返し体験したことで、活動の意味が分かってくる



③問題提起  
(じゃあ、○○のためにどうしたらよいか?)  
いつもとちょっと違う状況  
(あれ?何かちがう??) →考え始める

⑦学んだことを整理する、日常生活につなげる

④⑤⑥思考を可視化する  
可視化することで思考を確認、評価できる (教師も、子供自身も)  
「アウトプット→評価」の過程で何かに気づき、新たな思考が促される  
→考えが深まっていく、整理されていく

## (例) 国語「読み取ろう、伝えよう」

### ① 十分な体験や活動

文の中から「いつ・どこで・誰が」を見付けるクイズをたくさんすることで、扱う題材に十分に触れ、経験する



### ② 目的の理解

文の中に「いつ・どこで・誰が」が明記してあると分かりやすい。それらを使って分かりやすく伝えられるようになる

### ③ キーとなる「問い」

じゃあ、「いつ」ってどんなのがあるかな?

④ 問題解決のための思考 → ⑤ 思考のアウトプット

⑥ 評価



文を文節に区切り、一つ一つの言葉を短冊に書いて示し、その短冊を「いつ・どこで・誰が」に仕分けることで、「いつ」の種類や特徴について考える思考ツール「文章短冊仕分けボード」で短冊の仕分けをする際に、考え、悩みながら操作する過程 (思考→アウトプット→評価の繰り返し)

### ⑦ 振り返り、まとめ

いつの具体例をまとめた一覧を作り、その一覧を使って、外出の計画を友達に伝える

## 単元の目標

### 知識・技能

- ビー玉を転がして遊ぶコロコロ装置の仕組みが分かる。
- コースの高さや置き方を変えるとビー玉の動き方が変わることが分かる。
- 友達と一緒に遊ぶ楽しさが分かり、簡単な役割を果たしたり友達と仲良く遊んだりするための知識技能を身に付ける。

### 思考力・判断力・表現力等

- ものの仕組みや働きが分かり、コロコロ装置を工夫して作ったり、分かったことを発表したりすることができる。
- きまりを守って活動したり、遊びを工夫して発展させたりすることができる。
- 楽しいゲーム屋さんになるように考え、友達や教師と関わりながら準備したり会場を作ったりすることができる。

### 学びに向かう力・人間性等

- 友達と分担したり、関わりながら役割を果たしてコロコロ装置を作ったり、決まりを守って仲良く遊んだりすることができる。
- 来た人に喜んでもらえるような店のシステムや店員の仕事などのアイデアを出し合い、友達と役割分担して取り組むことができる。

## 単元の計画と概要

<p>第1次</p>	<p><b>コロコロ装置で遊んでみよう(2時間)</b>                      ねらい:コロコロ装置の面白さを知り、遊びに対して意欲や見通しをもつ                      ○ピタゴラ装置の映像を見てコロコロ装置について知る。                      ○教師が作成したコロコロ装置で遊ぶ。</p>	
<p>第2次</p>	<p><b>友達と一緒にコロコロ装置を作ろう(4時間)</b>                      ねらい:チームの友達と協力してコロコロ装置を作る                      ○チームと一緒にコロコロ装置を作って遊ぶ。                      ○自分が作ったコロコロ装置を「みてねカード」を使って発表する。                      ○友達の発表を聞いて「いいねカード」を使って評価する。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>4/10 授業づくりの聴き合い</p> </div>
<p>第3次 (本時)</p>	<p><b>ゲーム屋さんを開こう(4時間)</b>                      ねらい:児童一人一人が楽しいゲーム屋さんになるように、目的をもって装置作りに取り組む                      友達が作っているものに関心を持ち、友達と一緒に作ったり遊んだりする                      お客さんに喜んでもらえるような店のシステムや店員の仕事などのアイデアを出し合い、友達と役割分担して取り組む                      ○ゲーム屋さんを開くことを知る。                      ○ゲーム屋さんを開くために必要なことを考える。                      ○ゲーム屋さんを開店するための準備をする。                      ○ゲーム屋さんを開店する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>8/10 授業研究「学びあいの場」</p> </div>

コロコロ装置とは、NHK Eテレの番組「ピタゴラスイッチ」に代表されるビー玉を転がして遊ぶ装置のことです。ピタゴラ装置のDVDブックを好んで観ている児童や休み時間にビー玉を転がして遊んでいる児童がおり、コロコロ装置作りにも興味をもって取り組めるのではないかと考えました。

コロコロ装置は、段ボール、牛乳パック、トイレトペーパーの芯など身の回りの物を使って自由に切ったり貼ったり組み合わせたりし、試行錯誤しながら作って遊ぶことができます。

## 実現したい「子供の主体的な学び」

- 自分が作りたい装置を想像し、色々な材料の中からパーツを選んだり、置き方や組み合わせ方を工夫したりして友達と協力しながらコロコロ装置を完成させようとする姿
- 来てくれるお客さんを想像し、楽しんでもらえるように友達と協力しながら会場を作ったり、チラシやCMを工夫して作ったりしようとする姿

## 子供の姿の事実と解釈の聴き合い

### Aさんの姿の事実

ビー玉が入るようカップの位置やレールを変えたり、カップの向きを変えたりしていた。

レールの先をくっつけカップを触ってビー玉を転がし、ビー玉はレールの上を転がったがレールは倒れた。

### 解釈

ビー玉を入れたいという気持ちが強く、レールを安定させればよいと思ったのではないかと。自分で考えていく中で楽しんでいる。

レールをくっつけたのに、「おかしいな」「もうちょっとだったのに」「もう1回やってみよう」と思っているのではないかと。

カップの位置を変えて、装置を工夫する姿が見られた。試行錯誤しながら、活動を楽しんでいる。

ビー玉が、行ったり行かなかったりすることを楽しんでいたりかもしれない。動くことへの興味があるのではないかと。

Aさんが装置を作っている場面



Bさんが装置をつなげようとしている場面でのAさんの様子



### AさんとBさんの姿の事実

Bさんは、Aさんの作った装置と自分が作った装置をつなげようとしていた。その間、Aさんは他の材料の紙皿を触っていた。

### 解釈

Bさんは、Aさんの作った装置に関心を持ち、つなげてみたいと思ったのではないかと。

Aさんは、紙皿を使って自分の装置をもっと長くしようとしていたのではないかと。

「協力する」とは、どういうことか？どうすればよいか？まだ分かっていないのではないかと。

同じチームのエリアの中で作ればよいと思っているのではないかと。

## 子供の実態や願いについての聴き合い

### 子供の実態 (今考えていること、学ぼうとしていること)

- 一人一人に自分の作りたい装置のイメージがあり、それを完成させるために試行錯誤しているのではないかと。
- チームで作るということを「一緒に装置を作る」ではなく、「同じ空間内で一緒に作る」と捉えているのではないかと。
- 友達の作っている装置が気になり、遊んでみたいと思っているのではないかと。

### 願い

友達がしようとしていることに関心を持ち、友達の作っているものも、うまくいくように働きかけてほしい。

授業者はこれまで、「友達と協力して助け合いながら一つの大きな装置を作っていってほしい」という願いを持って授業を進めていました。授業づくりの聴き合いの中で子供の実態について解釈を重ね合わせたことで、授業者の協力に対する捉えが変わり、「友達がしようとしていることに関心を持ち、友達の作っているものもうまくいくように働きかけようとしてほしい」という願いへと変化しました。

## 授業改善への気づきと具体的な手立ての聴き合い

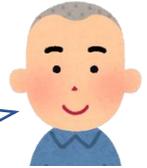
スタートやゴールを明確にするとチーム内で協力できる

友達の作った装置で遊ぶ経験

作った装置をお互いに見合う経験

# 聴き合いを経た授業者の思いと授業改善

友達の作ったコロコロ装置をお互いに見せ合あうだけでなく、お互いに行ってみることで、子どもたちの中で友達の考えていることや、やっていることなどについての気づきが生まれるのでは？



授業者

発表会の中に、友達の作ったコロコロ装置を体験する機会を設けた



友達が自分の装置で遊んでいる様子に関心を持ち、ビー玉がゴールまで行くようにコースを支えてあげたり、転がってきた友達のビー玉を受けとめてあげたりする姿が見られるようになりました。

## ① 十分な体験や活動

映像を見たりコロコロ装置で遊んだりする体験

パーツや材料を組み合わせて装置を作る体験



コロコロ装置の映像を見たり、コロコロ装置で遊んだり、試行錯誤しながら作ったりする経験を十分に重ねたことで、コロコロ装置の仕組みが分かり、授業の中で自分の装置を作る面白さや遊んだ時の楽しさに気づきました。休み時間にも自分の装置で遊んだり友達の装置で遊んだりするなど、作ったコロコロ装置で遊ぶことを楽しんでいる姿が見られました。

## ② 目的の理解

めあて

たくさんのお客さんが  
楽しめるような  
コロコロ装置をふやそう

どんなお客さんがきてほしい？

- ・小学部1,2組 ともだち
- ・中学部、高等部 ともだち
- ・校長先生、先生
- ・家 族
- ・学生先生
- ・附属幼稚園、小、中学校 ともだち、先生



## ③ キーとなる「問い」

「どうしたら たくさん お客さんが来て、  
楽しめる お店になるかな？」

はじめに 上記のようなスライドを提示し、全員で確認することで本時の学習の目的を理解できるようにしました。さらに、来店するたくさんのお客さんを具体的にイメージできるようにスライドを用いて可視化し、学習の目的を理解できるようにしました。



キーとなる「問い」に対して、ある子供が「SNSに投稿する。」と発言すると、「動画を撮ってCMにする」「チラシを作る」「パソコンで新聞を作る」など友達の意見を聞いて次の意見を言ったり、「宣伝係」という意見を聞いて、「案内係」「法被を着て、ベルを鳴らす係」「誘導係」など友達の意見をヒントにして新しいアイデアを思い付く様子が見られました。このような様子から、子供たちは目的を理解し、たくさんのお客さんに来て楽しんでもらうための方法を、友達の意見に関心をもったり、意識して話を聞いたりしながら考え、発言することができたと考えました。

## 〇コロコロ装置をつくろう



作ったり試したり修正したりしながら、パーツの中から好きなものを組み合わせて オリジナルの装置を作る。

## ⑦ 振り返り、まとめ

「ブーンっていった  
ところがよかった。」



発表体験会での発表  
いいねカードでの他者評価

④ 問題解決のための思考

⑤ 思考のアウトプット

⑥ 評価

これらの問題解決のための思考と思考のアウトプット、評価を循環させることで、主体的な学びにつながると考えました。

## Bさんが作っている円盤の装置でAさんもビー玉を転がして遊んだ後の場面



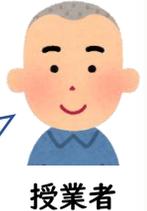
Bさんが円盤型のパーツの下に牛乳パックを入れながら「これ、もうちょっと高く。」「高くしようぜ。」「ねえ、高くしよう。」と言った。Aさんは、手に持っていたT型レールを2つ積み上げた。

Bさんは、Aさんも円盤にビー玉を繰り返し転がしているのを感じて、どんな装置にするか伝えて共有したいと思ったのではないかと。

Bさんは、Aさんが持っていたT型レールの設置の仕方を考えてアドバイスしていたのではないかと。

子どもたちなりに、イメージをしながら関わろうとしたのではないかと。

Bさんの発言は、授業者への意思表示や確認をしていると捉えていたが、BさんはAさんと一緒に装置を作ろうとしていたのかもしれない。AさんはBさんの「高くしよう。」という発言をアドバイスと捉え、持っているパーツを積み重ねて自分なりに高くしようとしたのかもしれない。



## 発表体験会で友達の装置のいいねポイントを探している場面



Aさんは、Eさんの装置に何度もビー玉を転がし、レールの先のギザギザのコースまでよく見ていた。長いレールに「いいね」カードを貼り、「速いところがいい。」と言った。

Aさんは、牛乳パックの長いレールを使って、そこからつなげて装置を作りたいと思ったのではないかと。

Eさんの装置に自分が作りたいと思っていた仕掛けがあり、自分もレールを使って作りたいという思いがあったのではないかと。

レールの先の仕組みを考えるようになったのではないかと。

Aさんは「速く動くもの」が理想の装置だったのではないかと。

Aさんは、ビー玉が速く転がる装置が理想で、それを基準として友達の装置を何度も試して確認し、速く転がってゴールができたから「いいね」カードを貼ったのかもしれない。自分も長いレールを作ったけれど、その先の仕組みを思い付かなかったので次のヒントとして何度もビー玉を転がして試していたのかもしれない。



## 実践を振り返って(子供の変容、教師の変容)

- 役割を果たすために友達に関わったり、友達がしている遊びを真似して遊んだりするようになった児童に、さらに友達との関わりを広げて欲しいという思いから、「コロコロ装置」を教材として友達とアイデアを出し合って一緒にゲーム屋さん作りに取り組む授業を行いました。当初、協力して1つのものを作り上げることが大切と考え授業を進めていましたが、作りたい装置のイメージがある児童やイメージがもてない児童など実態が様々で、チームの中で1つのものを作り上げることに難しさがありました。学部での聴き合いを通して、ゲーム屋さんを開くという共通した目的のもと、それぞれ作りたい装置を作る中で友達の作るものにも関心をもって関わることも協力していることになるという新たな捉えができました。友達の装置を体験する時間を設定したことで、「スピードが速いところがいい。」「ビー玉が戻ってくところがすごい。」など具体的に友達の装置の評価をしたり、休み時間に友達が作った装置に関心をもって遊ぶ姿が見られたりしました。
- 「学びあいの場」の授業では、AさんとBさんが同じ空間でそれぞれ作りたい装置を作る過程で友達のやっていることや発言を意識して活動している姿や、Aさんが友達に「いいね」と思うポイントを発表する際に、友達の装置で十分に遊んだ上で決めて評価している姿がみられ、友達のやっていることに関心をもって関わる姿がみられました。
- 今回の実践は、ゲーム屋さんを開いて多くのお客さんに来てもらいたいという共通した目的が、チームやクラス全体での活動の中で友達と関わることや役割を果たすことへの意欲につながりました。

## 単元の目標

### 知識・技能

- ・主語と述語の関係や修飾語の意味と役割について理解することができる。
- ・様々な状態や状況の表現として使われている擬音語や擬態語の違いを理解することができる。
- ・俳句の文字数や季語など、俳句のきまりを理解することができる。

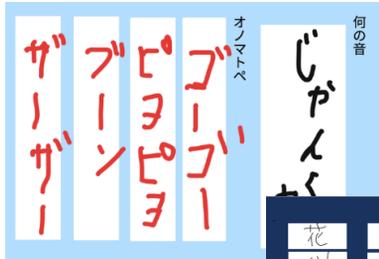
### 思考力・判断力・表現力等

- ・簡単な文を読み、主語と述語、修飾語に分けることができる。  
主語と述語、修飾語を取り入れた簡単な文を作ることができる。
- ・身の回りで起こる様子を擬音語や擬態語で表現し、テーマから連想されるキーワードを手掛かりにすることで俳句を作ることができる。

### 学びに向かう力・人間性等

- ・言葉の響きやリズムに親しみ、自分で俳句を作ったり、友達同士で読み合ったりする。

## 単元の計画と概要

第1次	主語と述語の関係、修飾語を知ろう(5時間)		
第2次	体験したことを文で書こう(3時間)		
第3次	オノマトペを知ろう(10時間)		
第4次	俳句に親しもう(7時間)	7/7 授業づくりの聴き合い	
第5次	俳句を作って発表しよう(16時間)	9/16 授業研究「学びあいの場」	

本単元では、俳句を作る前に基本的な文の構成を学ぶため、「主語と述語の関係、修飾語を知ろう」「体験したことを文で書こう」にて、主語と述語、修飾語の意味や役割の理解を深めました。そして、「オノマトペを知ろう」にて、野菜を切る動画を見たり、波の音を聞いたりして、その音をオノマトペで表現することで、語彙力や想像力、表現力を高める学習をしました。「俳句に親しもう」では、五・七・五の字数や季語といった俳句の仕組みについて学習したり、同年代の学生が考えた俳句を詠み、その情景を思い浮かべて話し合ったりすることで、俳句への理解を深めました。次に、俳句の作り方を学ぶため、俳句を構成する三句のうち、一句(上五・中七・下五)を考える学習を行いました。「俳句を作って発表しよう」では、今まで学習してきたことを生かし、テーマに関連したものを思い浮かべ、俳句作りに取り組みました。

## 実現したい「子供の主体的な学び」

- ・テーマから連想したり、テーマに関連する動画を視聴したりすることで、俳句に使用するキーワードを考える姿。
- ・俳句にしたい情景を思い描き、その情景を俳句に落とし込むために、五・七・五の字数を意識して言葉を選んだり、切れ字や体言止めなどの技法を使ったりする姿。
- ・相手に伝わるよう、俳句に込めた思いを説明する姿
- ・自分の俳句について説明を考えたり、友達の俳句に対して感想を伝えたりする姿。



## 子供の姿の事実と解釈の聴き合い

### 上の句を考える場面で

#### Aさんの姿の事実

指を折って字数を数え、うなずいていた。

上の句を「青いかさ」にした理由として、「雨が降りそうだから」と言った。

あめ 雨よ	買ってもらった	青いかさ
ふれ 降れ		

Aさんが作った俳句

#### 解釈

リズムの良さを感じているのかもしれない。

字数を意識しようとしているのではないか。

自分を主人公とするストーリーをイメージしているのではないか。

#### Bさんの姿の事実

Bさんは上の句に「かさ」と書いた後、ヒントのシートと、タブレットの画面を交互に見て、「を」を書き加え「かさを」で送信した。

あめ 雨よ	買ってもらった	かさを
ふれ 降れ		

Bさんが作った俳句

#### 解釈

切れ字や倒置法の例を見て、名詞の後に「や」や「を」などの言葉がくることが良いと思ったのではないか。

なぜ、五音にしなかったのかだろう。雨に関するキーワードを探すことに集中し、五七五の原則を忘れたのではないか。

## 子供の実態や願いについての聴き合い

### Aさんの実態(今考えていること、学ぼうとしていること)

- ・リズムの良さを感じているのではないか。
- ・字数を意識できているのではないか。
- ・言葉からストーリーや色のイメージを読み取っているのではないか。

### 授業者の気づき

- ・俳句の字数やリズムの良さについて、まだ理解が深まっていないと思っていたが、実はよく分かっていたそうだな。
- ・今後、ストーリーや色彩を意識して、俳句作りができそうだな。

### Bさんの実態(今考えていること、学ぼうとしていること)

- ・手掛かりとして用意した技法カードにばかり意識が向き、字数やリズムの意識ができていないのではないか。

### 授業者の気づき

- ・俳句の字数やリズムの良さへの理解がまだ深まっていないのではないだろうか。

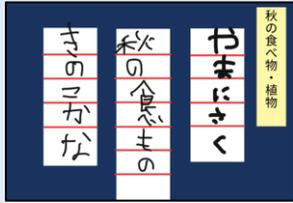
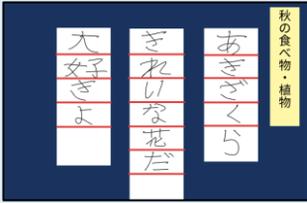
## 授業改善への気づきと具体的な手立ての聴き合い

- ・自分視点、他者視点、第三者視点の作品に触れる機会を設けることで、俳句作りの視野が広がるのでは。

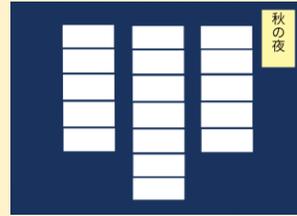
- ・俳句作成シートに五、七、五の升目を付けることで字数を意識しながら俳句作りをすることができるのでは。

- ・テーマについて友達と話し合ったり、手掛かりを用意したりすることでテーマにあった情景を思い描けるのでは。

# 聴き合いを経た授業者の思いと授業改善



生徒が作った俳句を発表する際に、必要に応じて「誰の視点」で作られているかをみんなで話し合ったり、確認し合ったりしました。

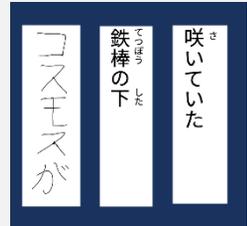
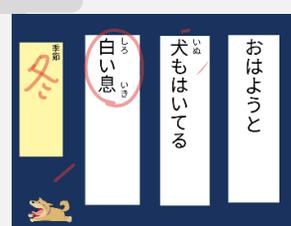
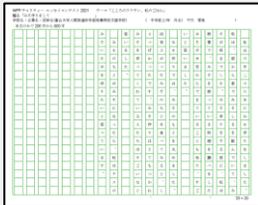
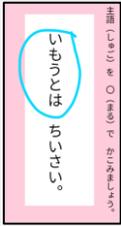


字数を意識できるように、俳句作成シートにマス目を付けました。漢字を使用した場合には、必要なマス目の数が変わるため、モーションを意識するように促しました。



テーマについて思い浮かんだキーワードを話し合ったり、動画教材を手掛かりにキーワードや俳句に使えそうなオノマトペを考えたりする場面を設けました。出てきたキーワードを手掛かりにできるように、その場で印刷して手元で確認できるようにしました。

## ① 十分な体験や活動



主語や述語、修飾語について学ぶ

主語・述語・修飾語を生かしてエッセイを書く

動画からオノマトペを考える

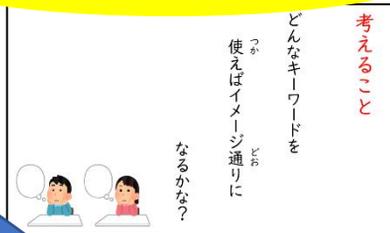
俳句の仕組みについて学ぶ

俳句の一部を考える

## ② 目的の理解



## ③ キーとなる「問い」



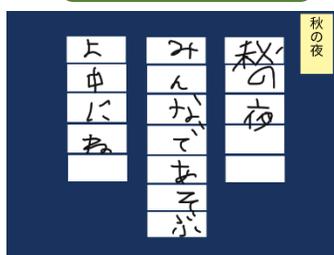
思い描いたイメージを俳句で表現するためにどのようなキーワードを使えば良いかを考えるように促しました。

## ④ 問題解決のための思考



「秋の夜」に関連するキーワードやエピソードを話し合ったり、「秋の夜」に関連するキーワードを想起できるように、動画教材を視聴したりする場面を設けました。そして、思い浮かべたキーワードを自由に書く時間を設けました。

## ⑤ 思考のアウトプット



それぞれの生徒が俳句と俳句に込めた思いを発表する時間を設けました。教師が生徒の思いを補足説明することで、説明の際の見本となるようにしました。

## ⑥ 評価



## ⑦ 振り返り、まとめ



自分が創作した俳句を評価したり、友達の俳句に対して感想を伝えたりする場面を設けました。

## Dさんの俳句を話し合う 場面で

楽しいよ	先生と見た	月見した
------	-------	------

Dさんは、【月見した 先生と見た 楽しいよ】という俳句を発表し、「先生と月見をしてみたい」と理由を話した。それに対し、Aは「“見たい”にすればいい」と提案した。

Dさんの気持ちを考えて、Aは「見たい」という言葉を提案したのではないかと。ただ、「見たい」にすると字数が変わることに気づいているのか。

Aさんは「みんなで～したい」という気持ちを表す俳句を作っていることから、Dの俳句も「見たい」にすると気持ちが伝わるのではないかと考えたのではないかと。



Aさんが、友達の発表した俳句とその理由や背景を聞くことで、友達の心情を理解したり、想像できたりしていることに気づきました。



授業者

## Bさんが俳句を作っている 場面で

	流れ星みたい	月のよる
--	--------	------

Bさんは、【流れ星みたい】と中七に書いた。

Bさんの書いた【流れ星みたい】は、【流れ星見たい】なのか、それとも【流れ星みたい(～のようだ)】のどちらの意味なのだろうか。それにより俳句に表したい思いが異なってくるのではないかと。



「見たい」、「みたい(～のようだ)」といった同音語の場合、俳句で表現している意味が異なってくるため、生徒に俳句で表現したい思いを尋ね、思いが上手に表現できるように支援することが大切だと気づきました。



授業者

## 実践を振り返って(子供の変容、教師の変容)

本授業に参加した生徒らは、どの生徒も国語に苦手意識があったり、想像することに困難があり、創作活動に難しさを感じていたりする子どもたちでした。そのため、俳句を作ることを伝えた際には、「やりたくない」「できない」といったことを言ったり、悲鳴をあげたりする姿が見られました。しかし、今までに経験したことをみんなで話し合ったり、動画を手掛かりにしたりすることで想像力を補い、様々な思いや情景を表した俳句を詠む生徒の姿が見られるようになりました。

「学び合いの場」では、友達の俳句から、心情を理解したり、情景を想像したりできている生徒の姿に気づきました。その姿から、昔の俳人が詠んだ俳句に触れる機会を設けることで、俳人の心情や情景、昔の生活様式など想像することで、生徒たちの想像力や感性をより高めることができるのではないかと考え、その後に俳句を鑑賞する学習場面を設けることにしました。鑑賞した俳句から、生徒たちは思いを表現するためには、必ずしも「五・七・五」にしないといけないわけではないことを学び、きまりに縛られず、思いや情景が伝わるように表現して良いということが分かったようでした。また、昔の生活を想像したり、今の生活との違いを考えたりする姿も見られました。

俳句を作る場面では、生徒たちにどのような思いや情景を表現したいのかを尋ねるようすることで、生徒たちの表現したいものが伝わるように支援するようになりました。支援を行うことで、【おいしいよ えびがぷりぷり さいこうだ】【トマトなべ チーズをいれて とろけてる】といったように「えび」や「チーズ」の状態を想像できるような表現がされた俳句を詠むようになりました。

実践の最後に、生徒たちに今まで詠んだ俳句の中からお気に入りのものを5句選んでもらい、「俳句集」を作成しました。そして、「俳句集」を本校教員や教育実習生に読んでもらい、たくさんの感想や称賛をもらったことで、生徒たちは「夢みたいだ」「やって良かった」「嬉しい」と感想を述べる姿が見られました。

実践を通し、生徒たちの俳句から想像力や表現力が高まったことが考えられます。また、思いや情景を表現する楽しさや、他者に伝わる嬉しさなども感じる事ができたのではないのでしょうか。私も本実践や学び合いの場を通し、思いや情景をより伝わるように表現することや、優れた俳句を読み、その思いや背景に触れることの大切さを学ぶことができました。

## 単元の目標

### 知識・技能

- ・ラーメン屋に関する写真を見たり文章を読んだりして、言葉や言葉の意味を知り、正しく読んだり書いたりすることができる。
- ・ラーメン屋についての簡単な文章を教師や友達と一緒に音読することができる。

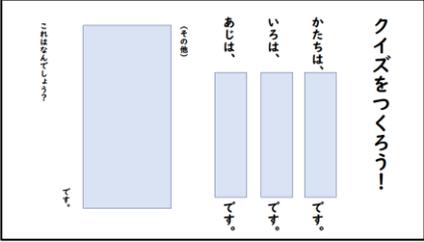
### 思考力・判断力・表現力等

- ・質問内容を正しく読み取り、質問に合った答えを写真や文章から見付けることができる。

### 学びに向かう力・人間性等

- ・ラーメン屋に関する文章を読み、興味関心をもったり、自分の知った情報やその感想を伝え合おうとすることができる。

## 単元の計画と概要

<p>第1次</p>	<p><b>クイズを作ろう(5時間)</b>                  目標:写真やイラストをよく見て、色や形の特徴を見付けよう。                  見付けた情報をクイズにして、伝え合おう。                  ○キャラクターや食べ物の特徴を見つける。                  ○見付けた特徴をワークシートに書く。                  ○クイズをする。</p>	 <p>ワークシート</p>
<p>第2次(本時)</p>	<p><b>富山のラーメン屋の情報誌を作ろう(8時間)</b>                  目標:文章や写真から、お店の情報を見付けよう。                  ○生徒それぞれに設定、提示された個別の目標を確認する。                  ○ポスターの写真を見たり、文章を読んだりして、「店名」「商品名」「値段」などの見付けた情報をワークシートに書く。                  ○ワークシートを掲示し、友達に紹介する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;">                     1/8, 3/8 授業づくりの聴き合い                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;">                     7/8 授業研究「学びあいの場」                 </div> </div>	 <p>個別の目標の確認</p>
<p>第3次</p>	<p><b>おすすめのラーメン屋を伝えよう(1時間)</b>                  目標:一番行きたいラーメン屋を決めよう。                  その理由を考えて友達に伝えよう。                  ○これまでに作った情報誌を見て、お気に入りのラーメン屋ベスト3を決める。                  ○選んだ理由を考えてワークシートに書く。                  ○友達に発表する。</p>	

## 実現したい「子供の主体的な学び」

### 写真を見たり文章を読んだりする活動をととして

- ・初めて聞いたり知ったりした言葉に印を付けたり「言葉カード」に加えて正しく読んだり書いたりする姿
- ・単元で学習した言葉を「言葉カード」で振り返って確認する姿
- ・文章をよく見たり指差したりして正しく読もうとする姿

### 文章を読んでワークシートに書く活動をととして

- ・質問に合った答えを写真や文章から見付けようとする姿
- ・自分から進んで文章を読み返し、間違いに気付いたり正したりする姿

### 情報誌に記入したり、発表したりする活動をととして

- ・新しい情報を見聞きして、興味や関心をもつ姿
- ・ペアの友達と協力して情報誌を作る姿
- ・自分の知った情報やその感想を伝え合おうとする姿

新しい言葉	
言葉	意味
てんめい	みせ 店名 店の名前
しょうひんめい	しょうひん 商品名 商品の名前
ねだん	しょうひん 値段 商品のお金
ぐざい	ラーメン 具材 ラーメンの中に入っている

言葉カードは、新しく学んだ言葉とその意味をその場で記入、振り返ることができるように、生徒のファイルに挟んである。

## 子供の姿の事実と解釈の聴き合い

各自が自分のワークシートに書かれているラーメン屋の紹介文を読み、各項目を記入する場面で

〇〇の定番メニューは、カツカレーラーメンです。850円です。具材は、ねぎ、とんかつ、目玉焼き、カレーが入っている。スープのダシは、豚骨、鶏がら、魚介です。味は、味噌、醤油、塩ではなく、カレー味です。お腹いっぱいになりたい人におすすめです。

店名	
具材	
スープ	
味	

Aさんのワークシート

〇〇の定番メニューは、豚骨醤油ラーメンです。1000円です。具材は、チャーシュー、ほうれん草、チーズが入っています。スープのダシは、豚骨と醤油を合わせて作っています。味は、醤油のしょっぱい味ではなく、ほんのりと甘いです。チーズが好きな女性におすすめです。

店名	
具材	
スープ	
味	

Bさんのワークシート

### Aさんの姿の事実

「スープ」の解答欄に「カレー」と書いた。その後、教師と一緒に始めから文章を指でたどりながら読むと「あっ」と言って席に戻り、「豚骨、とりガラ…」と書いた。

### 解釈

文章をきちんと読んでいなかったのではないかな。

文中の「スープ」という言葉に気づき、後ろの言葉を書けばよいと思ったのではないかな。

じっくりと読んだことで、キーワードが分かったのではないかな。

### Bさんの姿の事実

「ワークシートの味の欄に、「しょっぱい味ではなく、ほんのりと甘い」と一文すべてを抜き出した後、教師に「つまり?」と聞かれて、「ほんのりと甘い」と答えた

### 解釈

どんな味が理解しているが、ワークシートには、文をそのまま抜き出して書くものと思っているのではないかな

情報誌にまとめる時、「ほんのりと甘い」と書いたので、「つまり?」という教師の問い掛けで、答え方が分かったのではないかな。

## 子供の実態や願いについての聴き合い

### Aさんの実態 (今考えていること、学ぼうとしていること)

- ・最初に見た写真から、スープをカレーと思いついたのではないかな。
- ・一人で読むと難しいが、教師と一緒に読んだり、指差しをしながら読んだりすれば、気が付けるのではないかな。
- ・「とり…」がら「ぎょ…」か…い」などと、たどたどしく音読していることから「鶏ガラ」や「魚介」といった言葉を知らないのではないかな。

### 願い

- ・言葉とその意味を知ってほしい
- ・文章を読み取るために文章を音読したり、指さしたりして工夫しながら読んでほしい

### Bさんの実態 (今考えていること、学ぼうとしていること)

- ・教師との言葉でのやり取りでは答えられていることから、「〇〇ではなく、××」の文章を読み取れているが、ワークシートに書く際には、答えだと思った文章全体をそのまま抜き出して書いているのではないかな。

### 願い

- ・文章のどこを書けばよいのかを考えてから解答してほしい。

## 授業改善への気づきと具体的な手立ての聴き合い

・文章をしっかりと読むために、音読する機会を設定する

・キーワードに注目できるように印をつけながら読む機会を設定する

一文を抜き出した後、一旦考えてから「つまり、〇〇」のように答えられるワークシートにする

・新しく学習した言葉をまとめ、後で見返せるようにする

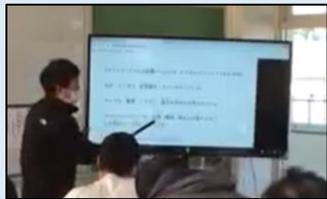
聴き合いでは、Aさんが課題を終えて、ワークシートを教師に提出し、教師と一緒に文章を読んだときに、自分のワークシートの解答の間違えに気付いたという場面についての話題が多く出されました。文章をきちんと読んでいなかったのではないかな。教師と読んだときに文中の「スープ」という言葉に気づき、後ろの言葉を書けばよいと思ったのではないかな。などの意見が出されました。

# 聴き合いを経た授業者の思いと授業改善

- ・教師と一緒に追い掛け読みをすることで、意味のまとまりや文節で区切って読むことが分かり、言葉とその読み方が分かるようになるかもしれない!
- ・教師と一緒に指差し読みをすることで、確実に文章が読めるようになるかもしれない!
- ・ワークシートを一文を抜き出した後、「つまり」に続けて解答を書けるようにすることで、一旦考えてから解答するようになるかもしれない!



全体で音読



個別で音読



言葉を意味のまとまりや文節で区切って読むことができるように、全員で教師の後に続いて追い掛け読みをしました。文章を途中で飛ばして読まないように、個別のワークシートに取り組む前に、教師やペアと一緒に指差し読みをしました。

解答のみを書く解答欄だったのを一文を抜き出した後に「つまり○○な味」と考えを整理して書けるようにしました。

<改善前>

味	
---	--



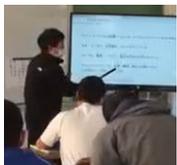
<改善後>

味	
	つまり、

しかし、生徒は上の欄に一文を抜き出さずに正しい解答を書き、「つまり」の後には前後の全く異なる言葉を書いていました。このことから、前時で逆説分の読み取りを分かりかけていたが、解答欄を複雑にしたことで、混乱させてしまったのかもしれないと考え、次の授業では前の解答欄に戻しました。

## ① 十分な体験や活動

追い掛け読み



言葉の意味を知る



指差し読み 読み取る



用紙にまとめる



教師の後に続いて、全員で追い掛け読みや言葉の確認をした後に、個別に指差し読みをして文章を読み、ワークシートに取り組んだ後、用紙にまとめました。これらを繰り返すことで、読み取ること、まとめることの体験を十分に行えるようにしました。

## ② 目的の理解

「富山のラーメン屋の情報誌を作ろう！」

この目標を示して、毎時間1枚の情報誌を完成させていくことで、「知りたい情報が情報誌には書いてある」ということが徐々に理解されていくようになりました。

## ③ キーとなる「問い」

「どこに書いてあるかな？」  
「声に出して読んでみよう」



○声に出して読もう



文章を文節に区切って読む  
→文章から言葉を探す  
→見つけた言葉を発表  
→友達や教師と確認

○情報誌をつくらう



文章を読む  
→文章から言葉を探す  
→ワークシートに書く  
→見直し  
→友達や教師と確認

④ 問題解決のための思考

⑤ 思考のアウトプット

⑥ 評価

主体的な学びへ

文章を工夫して読む  
文章を読み直す  
解答を見直す

④文章から読み取り、⑤ワークシートに書き、⑥見直したり友達と評価しあったりすることで、文章を工夫して読んだり、文章や解答を見直したりする主体的な学びにつなげたいと考えました。

## ⑦ 振り返り、まとめ

おすすめ情報の発表  
個別の目標に対しての自己評価



「おすすめは、○○ラーメンです」

友達からの感想や質問



「何を頑張って調べましたか？」

日常生活につながる問いかけ・評価

「ぼくにもおすすめです」



「子供から大人にもおすすめって書いてありますが、Bさんにもおすすめですか？」

目標に対する自己評価をしたり、教師や友達からの質問に応えたり、教師から評価を受けることで、学びが日常生活につながるようになりました。

Aさんが自分のワークシートへの記入が終わり、  
ペアのCさんの課題完了を待っている場面で

Aさんは、ワークシートの「おすすめのサイドメニュー」の欄に「サイ  
ダー、ラーメンとライス」と書いた。しばらくすると「ラーメンとライス」を  
消しゴムで消した。(正解はサイダーのみ)

Cさんのワークシートを  
見るAさん

消しゴムで消す  
Aさん



自分で、項目を確認  
しながら文章をもう  
一度黙読して、気付  
いたのではないかと。

Cさんのワークシートを眺めていた。Cさんの  
ワークシートには、「サイドメニューの記載が  
なく、「ラーメンとライスの組み合わせが絶  
妙です」と書いてあり、自分とCさんのワーク  
シートを見比べて、サイドメニューはサイダー  
だけで気付いたのではないかと。

ペア間で意図的にワークシートの質問を異ならせることで、友達に注目しやすいAさんは、Cさんの  
ワークシートの文章をよく読んだり、自分のワークシートを振り返ったりすることが促されたのかもし  
れない!



文章を読んでワークシートに質問に対する  
解答を書く場面で

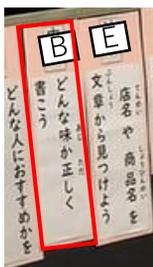
Bさんは個別プリントを書くときに、スープのダシは「魚介、豚骨」と書  
いたが、味は「あっさり」と書いた。味は正解を書いた。

## ワークシート

〇〇の定番メニューは、チャーシューめんです。1050円  
です。具材は、卵、ネギ、のりが入っています。スープ  
のダシは、魚介ではなく、とんこつのスープです。味は、  
しょっぱそうに見えますが、あっさりとしています。濃  
い味が好きな人におすすめです。他にも、紅のとんこつ  
ラーメンもおすすめ商品です。赤いスープとすりごまの  
組み合わせが絶妙です。

店名	
具材	
スープ	
味	

## 提示した目標



味は今まで目標に挙がっていたから  
よく読んで、「～ではなく」の言葉  
に着目し、AではなくBと読み取るこ  
とができたが、スープのダシについ  
ては、気付かなかったのではない  
か。よく読んでいなかったのではな  
いか。

音読をしていな  
かったから、文章  
をしっかりと読むこ  
とができていな  
かったのではない  
か。

注目してほしい質問内容を目標として提示することで、今まで経験していない箇所に逆説文が  
使われても、読み取ることができるのかもしれない!



## 実践を振り返って(子供の変容、教師の変容)

・最初は、ラーメンという身近な題材から、文章を読めるようになってほしい、将来の余暇につながってほしいとい  
う思いから今回の授業を行いました。しかし、生徒の実態がよく見えていなかったため、目標設定が曖昧でした。学  
部での聴き合いを通して、生徒一人ひとりの困難さやできることが見えてきて目標が明確になりました。授業で  
使った文章では、生徒にとって身近な言葉を使っているつもりでしたが、「言葉の意味が分からないのではない  
か」という、聞き合いでの解釈から、言葉の意味の説明を入れたり、「読み方が分からないのではないかと」という  
解釈から音読を取り入れたりすることで、生徒は言葉の意味で区切って読む読み方が分かり、ワークシートの解  
答を見付けられるようになりました。

・「学びあいの場」の授業では、Aさんは、解答を終えた後、友達のワークシートの文章を読んだり、自分の解答や  
文章を見直したりして、間違いに気づいて修正することができました。「学びあいの場」の後の授業では、Bさんも  
文章を読み直して自分の解答の間違いに気づく場面がありました。Bさんは答えとなる言葉に下線を引きながら  
読み直していました。AさんもBさんも自分なりに文章を工夫して読んでいました。また、「学びあいの場」では、そ  
の日の授業で目標として提示しなかった箇所の逆説文の読み取りをうまくできませんでしたが、その後の授業で、  
「スープのダシと味を正しく書こう」と目標を提示すると意識して読み取り、すべての逆説文を正しく読み取るこ  
とができました。

・今回の実践では、生徒の目標の提示を一人ひとり個別にしたり、音読を取り入れることで文章の読み方が分か  
り、生徒が質問に合った答えを文章から見付けようとする姿につながりました。また、ペアの生徒同士で学習に関  
するやりとりが生まれたり、見直しをしたりする行動につながったことは、「情報誌を作ろう」という目的を理解して、  
主体的に取り組んでいた姿であると考えます。

## 成果と今後の課題

- 子供の姿を丁寧に見ることで、その子供の姿から「子供が何を考え、どう学ぼうとしているのか」を考えようとする意識や認識が高まった。
- 各自の様々な捉えを聴き合うことで、子供の学びの実態に迫ることができた。
- 「単元構成イメージ」を共有することで、子供が考えることができる機会や場面を設けていこうとする意識が高まり、子供の主体的な学びの実現に取り組むことができた。



- ・聴き合いや単元構成イメージの取組を、より授業改善、授業づくりにつなげていくこと
- ・主体的な学びの実現による子供の学習の評価を充実させていくこと
- ・より効率的、持続可能的に実践を進めて行くこと